

平成27年度京都市交通事業予算概要

1 平成27年度京都市自動車運送事業特別会計予算

経 常 収 入	209億84百万円
経 常 支 出	203億71百万円
経 常 損 益	6億13百万円
利 益 剰 余 金	9億 3百万円
資 金 剰 余 額	8億73百万円

<主な業務の予定量等>

在 籍 車 両 数	800両 (788両)
走 行 キ ロ 数 〔 1 日 平 均 〕	84.9千km (84.0千km)
旅 客 数 〔 1 日 平 均 〕	338千人 (328千人)

注 () 内は、平成26年度の数値である。

(1) 予算の概要

平成27年度予算は、「京都市交通局市バス・地下鉄中期経営方針」の総仕上げの年度として、路線・ダイヤの更なる充実やお客様の利便性向上により、増客を図る、積極的な「攻めの経営」をより一層推進するとともに、累積資金不足の解消を実現し、一般会計からの任意補助金に頼らない「自立した経営」をスタートさせる予算編成とした。

経常損益は、1日当たり旅客数を33万8千人と、前年度予算に比べ1万人の増加を見込み、生活支援路線補助金（平成26年度予算：4億62百万円）を返上したうえで、6億13百万円の黒字となる見込みである。

また、これまでの経営健全化の取組により、損益収支の累積額と日常の資金収支は黒字に転換し、「利益剰余金」及び「資金剰余額」を計上する見込みとなった。

(2) 予算の重点

ア 路線・ダイヤの充実

(ア) 平成27年3月実施の運転計画

- ・201号系統の増便・等間隔運行の実施，鉄道との夜間乗継利便性の向上
- ・205号系統（西大路通）の朝ラッシュ時間帯における増便や「四条河原町ショッピングライナー」の運行拡充
- ・伏見稲荷大社方面（南5号系統）及び嵐山方面（28号系統）など，観光地へのアクセス系統の増便
- ・阪急西京極駅の駅前広場整備にあわせた鉄道との結節強化
（84号，特27号系統の経路を変更し，バスのりばが新設される駅前広場に乗入れ）
- ・京都学園大学太秦キャンパス開校にあわせた利便性向上
（11号，特71号系統の経路を「京都学園大学前」経由に変更）

(イ) 京都岡崎・都心循環バスの新設と100円循環バスの増強

- ・市バスの新しい魅力を発信する取組として，京都の代表的な文化・交流ゾーンである「岡崎地域」とまちなかを結ぶ「京都岡崎・都心循環バス」の新設
- ・都心を一方向(反時計回り)で循環している「100円循環バス」の両回り運行化

イ 魅力あるバス待ち環境の創出

(ア) 地域，民間等の協力によるバス待ち空間「バスの駅」の設置（10箇所程度）

(イ) インターネットを活用したバス接近表示器の設置（80基）

(ウ) 人と公共交通優先の道路として生まれ変わる四条通に，広いスペースを確保したテラス型（張り出し型）バス停を設置し，快適なバス待ち空間を創出

(エ) 広告付きバス停上屋，ベンチの整備推進

ウ お客様接遇の向上と安全運行の推進

(ア) 「市バス・地下鉄お客様サービス向上サポート会議」による外部評価や提言を踏まえた，全国一お客様サービスの実践

(イ) 運転操作時における各運転士の特性を踏まえた安全運行研修の実施

(ウ) 事故防止重点強化策（違法駐停車への啓発による走行環境の改善）

エ お客様サービスの向上

(ア) IC定期及びICカードによる乗継割引の導入（29年4月運用開始予定）

(イ) 市バス観光マップ「バスなび」（中国語・韓国語版）の作成

(ウ) 4箇国語対応のコミュニケーション支援ボードの全車配備

(エ) 京都駅前バスターミナル等における「市バスおもてなしコンシェルジュ」の配置

(3) 財政状況

(税込)

項 目		年 度		27年度予算		26年度予算		増 △ 減		
				億	百万円	億	百万円	億	百万円	
経 常 損 益	営業収益	207	10	202	08	5	02			
	運送収益	196	45	192	12	4	33			
	その他	10	65	9	96		69			
	営業外収益	2	74	8	31	△	5	57		
	一般会計補助金	1	11	6	16	△	5	05		
	長期前受金戻入額	1	46	1	98	△		52		
	収入計	209	84	210	39	△		55		
	営業費用	197	74	190	06	7	68			
	経常人件費	69	09	68	15		94			
	退職給付引当金繰入額	3	01	2	21		80			
経費	108	62	105	79	2	83				
減価償却費等	17	02	13	91	3	11				
営業外費用	5	97	5	94		3				
支出計	203	71	196	00	7	71				
差引		6	13	14	39	△	8	26		
特別損益			-	△	40	32	40	32		
再差引（純損益）		6	13	△	25	93	32	06		
利益剰余金 （△累積欠損金）		9	03	△	8	14	17	17		
資 本 的 収 支	企業債	12	48	25	93	△	13	45		
	補助金	2	93	4	74	△	1	81		
	収入計	15	41	30	67	△	15	26		
	建設改良費	22	70	33	57	△	10	87		
	企業債償還金	9	51	9	40		11			
	長期借入金返還金	2	00	2	00		0			
支出計	34	21	44	97	△	10	76			
差引		△	18	80	△	14	30	△	4	50
資金剰余額 （△累積資金不足）		8	73	△	6	25	14	98		
資金不足比率		-		3.2%		△3.2%		△		

(4) 企業債の状況

項目	年度	26年度末 未償還残高	年度内増△減			27年度末 未償還残高
			発行額	償還額	差引	
建設企業債		億 百万円	億 百万円	億 百万円	億 百万円	億 百万円
		66:70	12:48	9:51	2:97	69:67

2 平成27年度京都市高速鉄道事業特別会計予算

経 常 収 入	340億60百万円
経 常 支 出	354億58百万円
経 常 損 益	△ 13億98百万円
現 金 収 支	73億43百万円
△ 累 積 欠 損 金	△ 3,133億70百万円
△ 累 積 資 金 不 足	△ 309億17百万円

<主な業務の予定量等>

在 籍 車 両 数	222両[37編成] (222両[37編成])
走 行 キ ロ 数 〔 1 日 平 均 〕	56.9千km (56.9千km)
旅 客 数 〔 1 日 平 均 〕	358千人 (349千人)

注 () 内は、平成26年度の数値である。

(1) 予算の概要

平成27年度予算は、「京都市交通局市バス・地下鉄中期経営方針」の総仕上げの年度として、安全対策、お客様サービスの向上、増収増客の取組を確実に実行するとともに、計画の進ちよく状況を踏まえた一般会計からの必要な支援を確保し、経営健全化計画を着実に前進させる予算編成とした。

経常損益は、収入面において、1日当たり旅客数を35万8千人と、前年度予算に比べ、9千人の増加を見込んでいることや、駅ナカビジネスの積極的展開による増収などにより、前年度予算から10億51百万円改善し、13億98百万円まで赤字が縮小する見込みである。現金収支は、73億43百万円の黒字となり、前年度予算から16億76百万円黒字が拡大するものと見込んでいる。

また、日常の運転資金の不足額を表す累積資金不足は、前年度並みの309億17百万円となる見込みである。

(2) 予算の重点

ア 増収増客策

- (ア) 「京都市地下鉄5万人増客推進本部」の体制の下、沿線施設や区役所・支所と連携したイベント開催など、全庁を挙げた取組の更なる推進
- (イ) 駅ナカビジネスの積極的展開や、大学・企業と連携した駅ナカアートプロジェクトの実施など、駅の魅力向上
- (ウ) 地域や事業者等の協力をいただき駅出入口の案内表示を充実する「地下鉄道^{みち}しるべ」事業の推進
- (エ) 烏丸線北山延伸25周年記念事業、夏休み親子施設見学会、地下鉄応援キャラクターを活用したPR活動の実施

イ 駅ナカビジネスの積極的展開

- (ア) 「コトチカ御池」の拡充工事、今出川駅の店舗設置工事の実施
- (イ) 「コトチカ京都」の拡充に向けた実施設計

ウ お客様接遇の向上と安全対策

- (ア) 「市バス・地下鉄お客様サービスサポート会議」による外部評価や提言を踏まえた、全国一お客様サービスの実践
- (イ) 烏丸線への可動式ホーム柵設置（27年度四条駅、京都駅供用開始）
- (ウ) 三条京阪駅出入口への止水板設置
- (エ) 地下鉄車両車内灯及び駅照明のLED化の推進

エ お客様サービスの向上

- (ア) IC定期及びICカードによる乗継割引の導入（29年4月運用開始予定）
- (イ) ICカードチャージ機能及び4箇国語表示機能付き券売機、精算機の導入（27、28年度の2箇年で全駅に設置）
- (ウ) 改集札機のICカード対応の推進（27、28年度の2箇年で全改集札機のIC対応完了）
- (エ) 4箇国語対応のコミュニケーション支援ボードの全駅配備
- (オ) 利用者に分かりやすい案内サイン（駅地上出入口、駅構内）の整備推進
- (カ) 北大路駅、今出川駅トイレのリニューアル

オ 一般会計からの支援

- (ア) 国制度に基づく経営健全化対策出資金の確保
- (イ) 高資本費対策補助金（任意補助）の計上見送り

(3) 財政状況

(税込)

項目		年度		27年度予算		26年度予算		増△減	
				億 百万円		億 百万円		億 百万円	
経常	営業収益	277	82	269	92	7	90		
	運輸収益	253	39	247	04	6	35		
	その他	24	43	22	88	1	55		
	営業外収益	62	78	64	60	△1	82		
	一般会計補助金	29	40	25	79	3	61		
	長期前受金戻入額	32	97	38	37	△5	40		
	収入計	340	60	334	52	6	08		
	営業費用	263	15	259	88	3	27		
	経常人件費	51	74	51	41		33		
	退職給付引当金繰入額	1	39	1	64	△	25		
益	経費	85	04	81	63	3	41		
	減価償却費等	124	98	125	20	△	22		
	営業外費用	91	43	99	13	△7	70		
	支出計	354	58	359	01	△4	43		
差引		△13	98	△24	49	10	51		
現金収支		73	43	56	67	16	76		
特別損益			-	△37	62	37	62		
再差引(純損益)		△13	98	△62	11	48	13		
△累積欠損金		△3,133	70	△3,135	30	1	60		
資本的	企業債	195	15	147	77	47	38		
	補助金	13	93	11	81	2	12		
	出資	107	11	107	56	△	45		
	その他		1		18	△	17		
収支	収入計	316	20	267	32	48	88		
	建設改良費	118	10	91	35	26	75		
	企業債償還金	264	86	216	78	48	08		
	長期借入金返還金	24	95	24	94		1		
	支出計	407	91	333	07	74	84		
差引		△91	71	△65	75	△25	96		
△累積資金不足		△309	17	△309	18		1		
資金不足比率		23.1%		47.8%		△24.7	ポイント		

注 建設改良費には、鉄道・運輸機構借入金返還金4.9億5百万円を含む。

(4) 企業債等の状況

項目	年度	26年度末 未償還残高	年度内増△減			27年度末 未償還残高
			発行額	償還額	差引	
建設企業債		1,788:43	52:34	164:20	△111:86	1,676:57
出資債		32	-	-	-	32
特例債		131:88	28:75	21:69	7:06	138:94
資本費平準化債		698:14	67:37	12:05	55:32	753:46
資本費負担緩和分企業債		786:97	14:99	20:23	△5:24	781:73
小計		3,405:74	163:45	218:17	△54:72	3,351:02
鉄道・運輸機構借入金		296:61	-	49:05	△49:05	247:56
長期借入金		368:70	-	24:95	△24:95	343:75
合計		4,071:05	[46:69] 163:45	[46:69] 292:17	△128:72	3,942:33

注 発行額及び償還額の上段〔 〕は、借換分で外数である。